

## 避難情報をいち早くキャッチ

災害時は正確な情報をいち早くキャッチし、現在の状況を把握することが必要です。町では、防災行政無線で放送を行う他、テレビのdボタンの災害情報、町ホームページ、おうらお知らせメール、ツイッターなどでも情報を配信します。災害時には何が起るかわかりません。情報の取得方法は1種類だけでなく、複数の手段を用意しておきましょう。

テレビではリモコンのdボタンで表示



パソコンやスマホで情報をチェック



町ホームページ (災害情報)



お知らせメール



町公式ツイッター




### 防災行政無線

災害時の情報を迅速に伝える手段として、町内48地点に設置しています。大規模災害時には最大音量で放送します。

**Jアラートの試験放送を実施**  
全国一斉に試験放送を行います。  
日時▶8月10日(水)午前11時~

### 戸別受信機

防災行政無線の情報をラジオのように受け取れる機器。高齢者や防災行政無線が聞き取りづらい人を対象に機器の無償貸し出しをしています。

# 地震 台風 豪雨

# 避難のススメ



地震や台風、豪雨など私たちの周りには多くの自然災害のリスクがあります。災害時に最も大切なことのひとつが、安全な場所に避難すること。今回は災害時の避難のことについてお知らせします。

問合先  
役場総務課 ☎47-5018



令和2年7月豪雨により浸水被害を受けた住宅 (熊本県球磨村)

### 近年増え続ける自然災害

日本では毎年のように水害・土砂災害、地震などの自然災害が発生しています。

昨年度の例を上げると、令和3年8月の大雨、令和3年10月7日の千葉県北西部を震源とする地震、令和4年3月16日の福島県沖を震源とする地震などの自然災害が発生しました。特に令和3年7月1日からの大雨は、静岡県熱海市での土石流の被害を中心に、複数の都府県で多くの人命や家屋への被害の他に、ライフラインなどにも甚大な被害をもたらしました。

大きな災害被害が少ないと思われがちな邑楽町においても、過去には昭和22年9月に発生したカスリーン台風による甚大な豪雨被害などがあります。

## 警戒レベルごとにとる行動

警戒レベルとは災害発生の危険度と、そのときに私たちがとるべき行動を示した指標です。

**警戒レベル1~2**  
気象庁が各注意報を発表。この段階ではいざ避難するとなった場合に早急に動けるように、避難ルートや避難場所を確認しておきます。

**警戒レベル3**  
町が「高齢者等避難」を発令。避難に時間がかかる高齢者の他、障害のある人やその支援者は危険な場所から避難します。

**警戒レベル4**  
町が「避難指示」を発令。危険な場所から全員が避難します。  
※令和3年5月から「避難勧告」は廃止されています。

**警戒レベル5**  
町が「緊急安全確保」を発令。すでに安全な避難ができない状況なので、その場でできる限りの命を守る行動をとる必要があります。  
※「緊急安全確保」は災害状況を確実に把握できるものではないため、必ず発令されるとは限りません。

警戒レベル	避難情報など
5 命を守る行動	緊急安全確保 (町が発令)
4 全員避難	避難指示 (町が発令)
3 高齢者など避難	高齢者等避難 (町が発令)
2 避難行動を確認	洪水注意報 大雨注意報など (気象庁が発表)
1 災害への心構え	早期注意情報 (気象庁が発表)

↑ 高  
危険度  
↓ 低

↑ 1111まで必ず避難!

### 多様な避難行動からベストな選択を

このような状況の中で私たちは、どのような行動をとればよいのでしょうか。町の防災を担当する役場総務課の中村係長はこう話します。

「最近よく耳にするようになった記録的短時間大雨情報や線状降水帯という言葉。これらによる豪雨は、急激な河川の増水を引き起こし、気付いたときには避難できない状況になっていくことがあります。そのため、防災情報は自らいち早く取得することが重要になります。そして、雨風が激しくなり避難が困難になる前に、前もって自分が取るべき避難行動を決めておきましょう。避難とは、『難』

最後、中村係長は『災害で死ぬかもしれない』ことを意識して、年に1回でもいいので避難行動などについてを本気で考えてほしいと話します。



役場総務課 交通防災係  
中村 和典 係長



## 避難する場所を確認

避難は難を避ける行動のことです。避難所に行くことだけが避難ではなく、親戚・知人宅などへの避難も選択肢の一つです。また、豪雨時の移動は危険なため、浸水する可能性が低い場所では、その場にとどまり安全を確保することも必要です。

危険な場所や避難所は防災マップで確認



### 指定の避難所へ避難



開設される避難所は町から発信される情報を随時確認してください。

### 安全な親戚や知人宅へ避難



普段から災害時に避難することを避難先に伝えておきましょう。

### 安全なホテルや旅館へ避難



宿泊料金が必要です。事前に確認・予約をしておきましょう。

## 3つの条件が整えば その場で安全確保

- 1 洪水により家が倒れたり、崩れたりするおそれがない
- 2 浸水する深さよりも高いところに部屋がある  
※町の浸水想定区域は、ほとんどが3.0m未満。  
(家の2階以上で安全確保が可能)
- 3 水や食糧などの備えが十分にある



## 普段の備えを忘れずに

災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ、日頃から災害に対しての備えをしておくことが必要です。非常時用備蓄品の準備の他にも、防災マップで危険な場所や避難ルートを確認したり、避難行動判定フローで自分がとる行動を確認したりと、災害への心構えを常にしておきましょう。



### 避難行動判定フロー

